

[成果情報名]「させぼ温州」の若齢樹における施肥量と生育および収量

[要約]「させぼ温州」若齢樹の施肥量を標準施肥(9年生:窒素 15.0kg/10a)より30%多くすると、樹容積は大きく、葉中窒素含量は高くなる。1果平均重は増肥すると大きいが、収量は標準施肥が安定して多い。

[キーワード]させぼ温州、若齢樹、施肥量、収量

[担当]長崎果樹試・生産技術科

[連絡先]電話 0957-55-8740、電子メール s26700@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]果樹

[分類]指導

---

[背景・ねらい]

長崎ブランド「出島の華」の安定生産を図るために、若齢樹(6年生～9年生)の施肥量が「させぼ温州」の生育および収量に及ぼす影響を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. 樹容積は、標準施肥量(9年生:窒素 15.0kg/10a)より30%増肥すると大きくなる(図1)。
2. 葉中窒素含量は、標準施肥量より30%減肥すると明らかに低くなる(図2)。
3. 1果平均重は、標準施肥量より増肥すると大きく減肥するとやや小さくなる(図3)。
4. 収量は、標準施肥量で多く、30%減肥すると少ない。標準施肥量より30%増肥すると年次変動が大きい(図4)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「させぼ温州」栽培園の肥培管理に利用する。
2. 試験を実施した土壌は、安山岩質玄武岩を母材とする赤黄色土である。

[具体的データ]

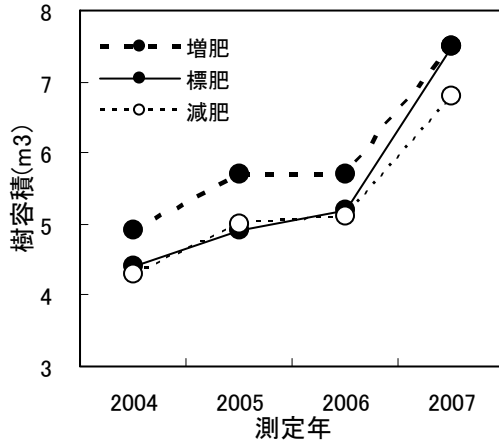


図1 樹容積の年次変化

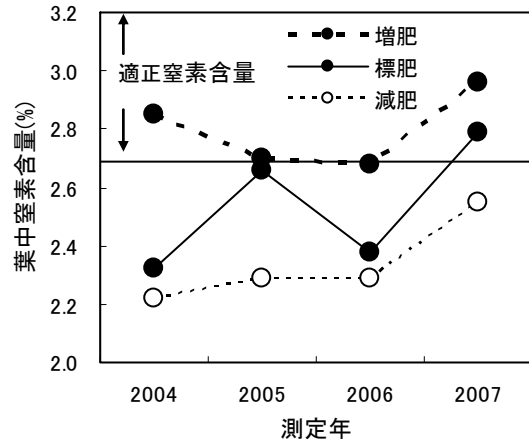


図2 葉中窒素含量の年次変化

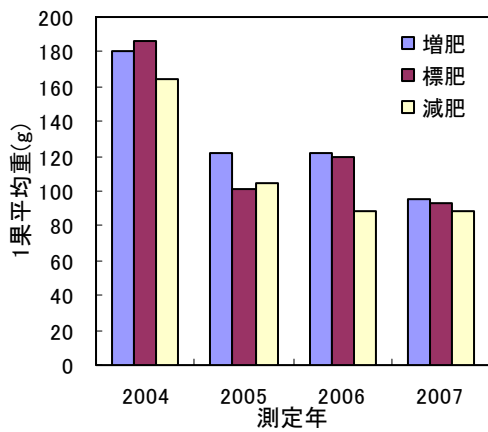


図3 1果平均重の年次変化

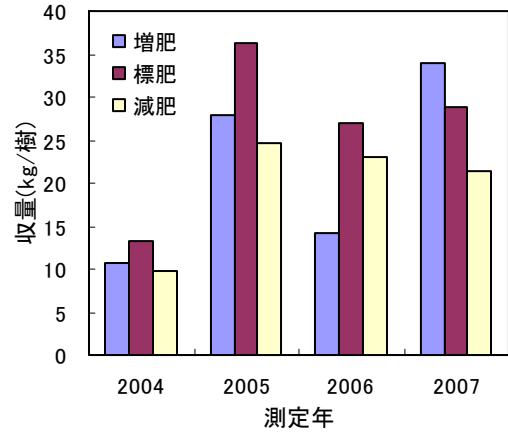


図4 収量の年次変化

[その他]

研究課題名 : 長崎ブランド「出島の華」の安定生産技術の確立  
 予算区分 : 県単  
 研究期間 : 2004～2007年度  
 研究担当者 : 井手勉、荒牧貞幸、永田浩久、古川忠、林田誠剛